

寒中お見舞い申し上げます。

今日は皆様どうしても知っておいていただきたい報告があります。

日大歯学部同窓会新年会(1月7日土・本部役員・グランドパレスにて16:00~)に、なんと前日歯会長臼田貞夫氏(前科一犯の人)が姿を見せました。来る方も来る方ですが呼ぶ方も呼ぶ方です。その上、上座に座ったそうです。そして臼田氏にいろいろな先生方が相変わらず挨拶に出向いていたそうです。この事は、明らかにいまだに臼田氏の影響力があることを証明しています。これにより、今回の会長選は“前会長臼田氏の影響を絶対に受けない人”というのが必須条件になった事は明らかであります。

臼田氏の影響力の一つとして、これまでいろいろな所から質問状をいただきましたが「今回の会長立候補者が前会長臼田氏から金銭授受を受けたか?」という質問を一度も受けておりません。国民にとっても一般会員にとっても一番知りたいのはこの事であり、この当たり前の質問が出てこないのは何らかの形で上記のような事実があるからだと思えます。ただ、どんな圧力があろうともこの問題を絶対に避けては通れないのです。なぜなら、過去の新聞記事『読売新聞 2004年9月18日(土)「日本歯科医師会」(日歯)の会長選を巡る業務上横領事件で、前会長・臼田貞夫被告(73)が、会長選に流用した3000万円を、日歯の政治団体「日本歯科医師連盟」(日歯連)に返還していたことが17日、分かった。日歯の井堂孝純会長が記者会見し、明らかにした。臼田被告は今年7月末、日歯側に弁護士を通じて、「深く迷惑をかけたことをおわびしたい」と謝罪。16日に振り込みで3000万円を返金してきたという。臼田被告は東京地裁で17日開かれた公判で、横領の事実を認めていた。東京地検特捜部の調べによると、3000万円は昨年の日歯会長選で投票権を持つ約140人の代議員のほぼ全員に配られていた。日歯の代議員会で真相解明を求める声が出ていたが、井堂会長は「3000万円が返還されたので、買収工作の実態について内部調査は実施しない」としている。』があるからです。

歯科医師会がすべてを不問にしようとしても国民がすでに知っているのです。日本歯科医師会はこの問題を解決しない限り“念仏のように改革”を唱えても誰も相手にしてくれないということです。

私は当然のことながら一銭も貰っていません！

そしてもう一点決定的なことは、先日私達は元厚労大臣と元厚労省幹部とお会いしました。その時に、はっきりと臼田政権と繋がっている執行部(両候補)が出来たら日本歯科医師会には対応できないと言われました。悲しいことですがこれが現在の政治家・厚労省幹部の本音なのです。そしてこれが現在の日本歯科医師会の置かれている状況です。その上、上記のような事が未だにある以上、その情報はすぐに政治家や官僚の耳に入りますから、さらにガードは異常に固くなるものと思われれます。皆さんもこのことを直視するべきです！

臼田氏の影響力を絶対受けない人物を是非選んでください。

どうか勇気ある清き1票をお願いいたします！

西岡忠文

平成18年1月12日(木)